

「林学科に進んできこりになる」。そんな思いを担任に伝えたのは高3の時。「それはやめとけ。無理だ」と即座に却下され、農場実習のある農学科へ。フィールドワークや実験を通して本物に触れたいという思いからでした。そんな学びのスタイルは教師となった今も変わらず、授業では、植物を顕微鏡で観察したり、ブタの眼やアカムシを解剖したり、生徒とともに生命の神秘、奥深さを身近に感じたいと願っています。



手と足を動かして、実体験する。

高校時代、好きな教科は数学でした。でも、フィールドに出たり、実習や実験がしたいという思いもあり、大学は農学部を選びました。当時は30人の学科のメンバーのうち女性は2人だけ。現在の理系女子の割合に比べると隔世の感がある大学生活でした。大学卒業後は金城学院中学・高等学校の非常勤講師に。子育てで一度職を離れるものの、23年前に専任教諭として復帰しました。

教科指導の中で心がけていることは、「本物に触れさせる」「実物を見せて自分で体験させる」。中学で教えていた時も、恵愛祭のクラス発表は必ず生徒とともに出かけ、実際にやることを心がけていました。ある年は、残飯をミミズに食べさせて肥料としてリサイクルしている「ミミズ牧場」を見学し、いただいたミミズを、残飯を食べさせながら飼育しました。またある年は、木曾川上流の森林の保全活動をする「みたけ・水トラスト」の活動現場に行き、間伐、枝打ちをお手伝い。思えば、フィールドワークや実習を希望して大学を選んだ自分と今の自分と、根本のところでは全く変わっていないことに、あらためて気づきました。

実験を通して、生物の面白さを伝えたい。

生物の面白いところは、常に最新の知見を学べること。例えば京都大学の山中伸弥教授らがiPS細胞の作製に成功したのは2006年。名古屋大学の東山哲也教授が被子植物の受精の瞬間を世界で初めて捉えたのが2001年。つい最近のことなんです。生物学の進歩に伴って新しい知見がどんどん入ってきて、10年前の教科書と今とは内容が全く違います。それだけ内容が高度になり、覚えなければならない用語もどんどん増えて、生徒は大変だと思います。

生徒には、紙上の知識だけではなく、実験や実習を通して自分で発見してほしいと思っています。今年は文系3年のクラスでも「授業で学んだ知識を実験を通して追体験する」という授業スタイルに挑戦しています。それもレシピ通りに実験するのではなく、レシピを考えさせる。例えば、発酵によってアルコールが発生する実験で、「反応を起こす試験管の中には何を入れますか」と問うと、「アルコール」と答える生徒がありました。与えたレシピで実験をしていたら言われた通りに動くだけであるということを実感。そういう意味では、実験は回数が必要なのではなく、実験前の準備や実験後のデータ処理と考察が大切で

生命への関心と理解を深めてほしい。

本物を見て、触れて、感じることで



村上 恵子 教諭

MURAKAMI Keiko

金城学院高等学校
担当教科 / 理科 科目 / 生物

名古屋大学農学部卒業後、金城学院中学校・高等学校 非常勤講師。子育てのため退職し、その後1998年専任教諭として復職。金城学院中学校に16年勤務、高等学校に7年勤務。2018年より演劇部の顧問も務める。

あることを改めて学びました。これはもちろん自分一人ではできないことではなく、実験助手の朱宮郁代さんに助けていただきながら、今年チームを組んでいる河江綾子先生と共同で実験準備にあたっています。金城学院には多くの先輩の先生方の宝のような実験の歴史が残されています。それを通して生徒に本物に出会ってもらえることができればうれしい限りです。

4年前、自ら希望して演劇部の顧問に。

部活動もルーツは学生時代にあり、高校時代、英語部で毎年文化祭にシェークスピアの英語劇をしていた経験が楽しく、大学でも演劇部に入りました。金城学院130周年の一昨年、宗教主事の沖崎先生から制服制定に関するレクチャーを受け、創作台本を書きました。金城学院百年史を読み、事実に物語を借りて書きあげました。その中で、金城のキリスト教教育のゆるぎなさに感銘を受けました。演劇部は一昨年、この台本で地区大会を勝ち上がり、県大会に出場しました。演劇はチームワーク。裏方もキャストも本音で話し合い、ぶつかり合いながら一つの舞台を創りあげます。これからも生徒の伴走者として、ともに表現者としての世界を広げていきたいと思っています。

Q. 村上恵子先生ってどんな人？

高1の時に生物基礎を教えてもらったのですが、初回の授業でいきなり童話「ごんぎつね」の話を始め、そのうち想いがあふれて大泣き。その時は唖然としましたが、それだけ優しく暖かい先生なのだということが3年間のおつき合いでよくわかりました。このプーさんはそんな先生への感謝の気持ちをこめて、クラスみんなでプレゼントしたもの。先生は自宅で養蜂をされていて、村上先生といえばハチミツ、ハチミツといえどプーさんということで。体育祭の創作ダンスと同じマスク、衣装を着せています。



(写真左から)
堀部あいら(3年J組)
西ヶ谷梨里(3年H組)
岩月百々花(3年H組)
宮本愛子(3年H組)

村上先生の活動アルバムより



4代にわたる金城学院生の制服をモチーフに「女性が学ぶということ」を描いた舞台。初演は2019年。今年の伝道週間でも再演されました。



演劇部の生徒たちと。



「金城学院百年史」と幼稚園の頃から慣れ親しんできた聖書。

理科室でミミズを飼育!



水源の森・みたけで木こり体験。生徒とあちこちに出かけ、その中で出会った人たちは私の大切な財産です。